

緒 言

田中康仁

奈良県立医科大学 整形外科科学

足部は28個の骨が複雑に組み合わさり、どのような地表面にも足底を適合させることができる構造をしている。また、足部には体重を支えるために大きな荷重がかかり、さらに疾走時には全身の筋肉から生じる力の作用点として働く。そのためにオーバーユースに起因するスポーツ傷害が多く、常に荷重がかかる部位であるために、しばしば難治性になる。逆に言えば足部は荷重を分散させることができるために、傷害部位をかばいながらもスポーツ活動ができてしまうことが多い。そのため足の他部位や膝や腰などに二次的な障害を生じることも少なくない。スポーツ選手は競技レベルが高くなるほど活動を休止することに大きな抵抗があり、スポーツ活動と折り合いを付けながら治療しなければならない。スポーツ整形外科を専門とされている先生は、足部のスポーツ傷害を治療することの難しさを実感されていることと思う。

本シンポジウムは第3回 JOSKAS 会長の北海道大学・安田和則教授からのご依頼で、難治性スポーツ傷害に関するプログラムを構成させていただいた。スポーツ整形外科医でも足部傷害の治療を得意とされている方は比較的少なく、実際に傷害を持った選手を治療する際に、どうしたらよいか選択に迷うことも多いと考えられる。その疑問に答えられるように構成を考えた。内容的には Lisfranc 靱帯損傷、舟状骨疲労骨折、難治性アキレス腱損傷、足底腱膜炎、扁平足に伴う外脛骨障害を取り上げ、日本を代表するスポーツ傷害の専門家に、詳細に教えていただいた。この企画が一人でも多くのスポーツ選手に恩恵をもたらすことを願ってやまない。